

わたしたちの願いを実現する政治

「富山市の新しいまちづくり ～まちを元気にするライトレール～」

指導目標	<p>◎資料を通してライトレールと昔の富山港線を比べ、ライトレールのよさに気づくことができる。</p> <p>◎なぜライトレールが作られたのかを資料を通して自分なりの考えをもつことができる。</p> <p>◎調べたことをもとに話し合うことを通して、市の目指すまちづくりについて自分なりの考えをもつことができる。</p>
公共交通を教材とする利点	<p>ライトレールを使った市の新しいまちづくりについて関心を持って調べることで、これからの市のまちづくりについて自分なりの考えをもつことができる。</p>
対象学年	6年生
対応教科	社会科
標準校時	9コマ
学習構成	<div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">1. ライトレールについて知る</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地図や写真を用いて、ライトレールの概要を知る。 </div> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">2. なぜライトレールを利用する人が増えたのだろう</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昔の富山港線と比べ、時間帯別や年代別の利用者数をみることで、ライトレールの利用者数が増えた理由について予想を立てる。 ・資料を用いて、ライトレールの利用者が増えた理由を調べる。 ・ライトレールについてわかったことをまとめる。 </div> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">3. なぜ、ライトレールがつくられたのだろう</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富山港線の利用者の減少により、廃止計画が出ていたことを確認する。 ・富山港線を使っていた人たちはなくなると困ることや、市民の願いをかなえるために市や市議会がライトレールの予算や計画をつくったことを知る。 ・なぜ、ライトレールが作られたのか調べ、自分の考えをまとめる。 </div> <div style="border: 1px solid #ccc; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">4. ライトレールを使って、市はどんなまちづくりを目指しているのかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民の願い、環境面、社会面などからライトレールがつくられた理由を考え、市の目指すまちづくりについて考える。 </div>

モビリティマネジメント教育

「富山市の新しいまちづくり ～まちを元気にするライトレール～」

○ 学習のねらい

ライトレールを使った富山市の新しいまちづくりについて関心をもって調べ、これからの富山市について自分なりの考えをもつことができる。

○ 対象学年・教科

6年生 社会「わたしたちの願いを実現する政治」

指導要領での位置づけ

内容の取り扱い（小学校学習指導要領解説社会編P92より抜粋）

ウ アの「地方公共団や国の政治の働き」については、社会保障、災害復旧の取組、地域の開発などの中から選択して取り上げ、具体的に調べられるようにする。

：

地域の開発を取り上げる場合、その事業について、計画から実施までの経過、規模や予算に着目し、その事業の実施に当たっては、市役所、県庁がそれぞれの地域の実態に応じて、住民の願いを取り入れながら、国と協力したり長期的な見通しを立てたりして、望ましい施策を決定し、実行していることを具体的に調べるようにする。

○ 時間数

3時間（単元は9時間）

1	富山市の新しいまちづくり
2	
3	
4	税金の働き
5	国会の働き
6	内閣の働き
7	裁判所の働き
8	これからの富山市について考えよう
9	

○ 準備物

プロジェクター、スクリーン、実物投影機

○ 授業概要

1時間目 ライトレールと昔の富山港線の違いから、ライトレールのよさに気づく。

2時間目 なぜライトレールが作られたのかを資料を通して考える。

3時間目 ライトレールが作られた理由について話し合い、富山市の目指している新しい町づくりについて自分なりの考えをもつ。

※ ライトレールに乗車体験をしたり、市役所の市議会出前講座を活用したりするのもよい。

授業の展開（1時間目）

(1) ねらい

資料を通してライトレールと富山港線を比べ、ライトレールのよさに気づくことができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点
5	<p>1 ライトレールについて知る。</p> <p>■発問 これは何ですか。(ライトレールの写真を提示)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ライトレール ・ たくさんの色の車両があるよ。 ・ ライトレールに乗ったことあるよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 富山市のどこを通っているのかを地図で提示して確かめる。 ・ 教科書P24写真
15	<p>2 富山港線とライトレールの利用者数を比べ、利用者数が増えた予想を立てる。</p> <p>■発問 これは何だと思えますか。(富山港線の写真を提示)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 昔のライトレールの写真かな。 <p>■発問 資料から分かることは何ですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者数がとても多くなっている。 ・ 平日の昼の時間も利用する人が多くなった。 ・ お年寄りで利用する人が増えている。 ・ なぜ、こんなに利用する人が増えたのだろう？ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>なぜ、ライトレールを利用する人が増えたのだろう？</p> </div> <p>■指示 ライトレールの利用者が増えた理由を予想しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 富山港線の時より、利用しやすくなったのかな。 ・ 外観もきれいになっている。乗りたいと思う人が増えた。 ・ たくさんの人に乗ってもらうために、何かサービスがあるのかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 富山港線がほぼ同じ場所を走っていたことも確かめる。 ・ 子どもの実態に応じて、資料の読み取り方も確かめる。 ・ ライトレールを利用している年代にも注目し、高齢者の利用が増えていることも確かめるようにする。
15	<p>3 ライトレールの利用者が増えた理由を調べる。</p> <p>■指示 なぜ、ライトレールの利用者が増えたのか、資料を見て調べましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資料を見て調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 書けない子どもには、富山港線とライトレールの写真を見比べて気づいたことを書くよう助言する。
10	<p>4 調べたことを出し合い、ライトレールについて分かったことをまとめる。</p> <p>■指示 ライトレールについて分かったことをまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ライトレールになってから、本数が増えた。時間も15分おきで覚えやすい。利用しやすくなったから。 ・ 駅がとてもきれいになった。スロープもついているから、バリアフリーになっていて、とても使いやすい。 ・ 電車の床とホームの高さも同じ。お年寄りや車いすの方でも楽に乗り降りできる。 ・ アテンダントの方も電車に乗っている。分からないことも聞けるし、乗る人が増えると思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な写真を拡大して、黒板に位置付けていてもよい。 ・ 実際に、ライトレールに乗車体験をさせてもよい。 ・ 時間内で終わらなかった場合は、考えを出し合ったりまとめたりする時間を次の時間の最初に行ってもよい。

授業の展開（2時間目）

(1) ねらい

なぜライトレールが作られたのか、資料を通して自分なりの考えをもつことができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点
5	<p>1 富山港線の利用者減少の資料を読みとる。</p> <p>■発問 資料を見て気づいたことはありますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> 富山港線の利用者数は年々減っていた。 このままどんどん減っていきってしまうようだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 富山港線が利用者の減少により、廃止の計画も出ていた事実を教科書P24で確認する。
15	<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">なぜ、ライトレールが作られたのだろうか？</p> <p>2 なぜライトレールが作られたのかを予想する。</p> <p>■指示 ライトレールがなぜ作られたのかを予想しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 富山港線を使っていた人がいたはずだよ。使っていた人たちが残してほしいと、頼んだのだと思う。 学校や会社に行くのに、富山港線を使っていた人もいるから、もしなくなってしまうたらとても困ると思う。 ライトレールになってから、利用者は増えている。いろいろな年代の人が使うようになってきているから、たくさんの人にもっと電車にのってほしかったのではないかな？ 電車にたくさんの人が乗るのは、環境にもよいことだよ。車の排出ガスが地球温暖化にもつながる。 <p style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 駅のベンチにあるメッセージ 「電車大好き、じいちゃん、ばあちゃん乗ろう」 「夢を形に みんなの富山 まちづくり」「富山の輝かしい未来のために！」 「こころ豊かなまちづくりのシンボルとして」「レールでつなぐクリーンな未来」「自然と人を大切に」「人とまちに優しいポートラムに期待をこめて！」 </p>	<ul style="list-style-type: none"> 富山港線を守ってほしいという願いがあったのではないかという考えを大切にすること。 富山港線を守る会があったことを伝え、市民の願いをかなえるために市や市議会が予算や計画をつくらせたことを説明する。 (教科書P24見どころその1) さらに、様々な視点から予想できるように駅のベンチのメッセージを提示する。
20	<p>3 ライトレールがなぜ作られたのか教科書と資料を使って調べる。</p> <p>■指示 富山ライトレールがなぜ作られたのか調べましょう。 教科書と資料を使って調べる。</p>	<p>教科書P25(見どころその2,その3)や資料を使う。</p>
5	<p>4 なぜライトレールが作られたのか、自分の考えをまとめる。</p> <p>■指示 富山ライトレールがなぜ作られたか、自分の考えをまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ライトレールは、富山港線を使っていた人のために作られたのだと思う。この電車がなくなったら、とても生活に困る。 お年寄りでも楽に移動ができるように作られたのだと思う。車が運転できないお年寄りもいると思うから、その方たちのために作られたのだと思う。 富山県は、車の保有率がとても高い。それに、自動車が排出する二酸化炭素の量はとても多いから、環境のことも考えてライトレールが作られたのだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えの根拠となる資料が明確になるように、参考にした資料も書かせるようにする。

授業の展開（3時間目/本時）

(1) ねらい

調べたことを基に話し合うことを通して、富山市の目指すまちづくりについて自分なりの考えをもつことができる。

(2) 本時の展開

	学習活動	指導上の留意点
25	<p>1 調べてまとめたことを基に、話し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>なぜ、ライトレールが作られたのだろうか？</p> </div> <p><市民の願い></p> <ul style="list-style-type: none"> 富山港線を利用していた人たちのために、ライトレールを残したのだと思う。もし、廃止になっていたら、利用していた人たちは、とても不便だと思う。 <p><環境面></p> <ul style="list-style-type: none"> 富山県の車の保有台数は、全国第2位。移動するのに自動車をほとんど使っている。でも、自動車から出る二酸化炭素の量はとても多いことが分かる。二酸化炭素は、地球温暖化に関係しているから、環境のことも考えて作られたのだと思う。 <p><社会面></p> <ul style="list-style-type: none"> 今、富山市では高齢化が進んでいる。それに、自動車を使えない人の割合がほとんどお年寄りだ。このまま、高齢化が進んでいったらどんどん自動車を運転できない人の割合が増えていく。ライトレールは、お年寄りの利用者も多かったから、将来のためにライトレールが作られたのだと思う。 交通事故の原因は、ほとんど自動車が原因だと思う。自動車に乗る人が少なくなれば、事故も減ると思う。安全なまちにしたいから、ライトレールを作ったのだと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 調べてまとめた内容を読み返させ、自分の考えを確認させる。 市民の願いや環境、社会面など類型化して板書することで、富山市の目指すまちづくりについて考えやすいようにする。 ライトレールの各駅のベンチに、市民や作った方の願いがあったことを、もう一度提示するのもよい。
10	<p>2 なぜライトレールが作られたのか、交通政策課の東福さんの話を読む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 富山市交通政策課からゲストティーチャーして来ていただくもよい。
10	<p>3 ライトレールを使って、富山市がどんなまちづくりを目指しているのか、自分の考えをまとめる。</p> <p>■指示 自分の考えをノートにまとめましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 富山市は人に優しいまちづくりを目指している。これから高齢化も進むから、ライトレールが作られたのだと思う。 富山市は環境に優しいまちづくりを目指している。電車に乗ってくれる人が増えるようにライトレールを使って街づくりをしている。 富山市は、何年たってもみんなが住みやすいまちづくりを目指していると思う。人や環境に優しい街づくりを進めるために、ライトレールを作った。 	<ul style="list-style-type: none"> 富山市がライトレールを使ってどのようなまちづくりを目指しているのかについて書くように、書く視点をはっきりとさせる。

■本時で活用する資料

富山市の「くしとだんごのまちづくり」

富山市は住む所や買い物をする所がいろいろある場所にはらばっているため、車がないと移動するのが不便です。そこで富山市では、家や店などが集中する場所(おだんご)を公共交通(くし)でつなぐ「くしとだんごのまちづくり」に取り組んでいます。ちらばったまちを集中した場所(おだんご)に変えて、公共交通を使う人を増やし、公共交通(くし)を使いやすくすることで、車を使わなくても移動できるようにしたいと考えています。

いくつもの「おだんご」が「くし」によってつながっています。

おだんご：住む所、買い物をする所、働く所などが集まっている場所
くし：おだんご同士をつなげる電車やバスなどの乗り場

富山市が目指しているまち

公共交通の便利な地域に住む人を増加

公共交通を便利にする。まちながに住んでもらう。

約3割 約4割

約3割 約4割

富山市交通政策課 東福光晴さんのお話

公共交通を便利にすると、高齢者や体の不自由な人などが使えないでも、おだんごに移動できるようになります。また、車の代わりに公共交通を利用すると二酸化炭素の排出量が削減されます。富山市は、「くしとだんごのまちづくり」に取り組むことで、人と環境に優しいまちを目指しています。

富山市交通政策課

ライトレールを活用した富山市の新しいまちづくりについて調べよう

ライトレールが運行している場所

ライトレールの利用者数(平成24年3月末)

平日年間約 4,815人/日(前年比2,266人増) 休日年間約 3,717人/日(前年比1,045人増)

時間帯別利用者数の変化(平日)

年代別利用者数の変化(平日)

富山市交通政策課

公共交通を活用した新しいまちづくりについて考えよう

世帯あたりの自動車保有台数

1.72(台) 1世帯あたり

全県第2位 富山市

自動車保有台数の増加

富山市は1.4倍に増加(全国平均1.2倍)
前年度比は7.6倍に増加(全国平均6.4倍)

富山市の65才以上の人口割合

1人あたり100円以上の支出される世帯の割合

富山市交通政策課

富山市の「くしとだんごのまちづくり」

富山市が目指しているまち

公共交通の便利な地域に住む人を増加

約3割 約4割

約3割 約4割

富山市交通政策課 東福光晴さんのお話

富山市は住む所や買い物をする所がいろいろある場所にはらばっているため、車がないと移動するのが不便です。そこで富山市では、家や店などが集中する場所(おだんご)を公共交通(くし)でつなぐ「くしとだんごのまちづくり」に取り組んでいます。ちらばったまちを集中した場所(おだんご)に変えて、公共交通を使う人を増やし、公共交通(くし)を使いやすくすることで、車を使わなくても移動できるようにしたいと考えています。

いくつもの「おだんご」が「くし」によってつながっています。

おだんご：住む所、買い物をする所、働く所などが集まっている場所
くし：おだんご同士をつなげる電車やバスなどの乗り場

富山市交通政策課